

# 日本顕微鏡学会会報

2004  
No.1

社団法人 日本顕微鏡学会

■2004年3月31日発行

■〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9  
（財）日本学会事務センター内

■TEL: 03-5814-5801 ■FAX: 03-5814-5820

■E-mail: [jsm@bcasj.or.jp](mailto:jsm@bcasj.or.jp)

■URL: <http://www.bcasj.or.jp/jsm/>

## ◇藤本和先生の急逝を悼む

昨年、11月28日、福井県立大学看護福祉学部教授、日本顕微鏡学会評議員、藤本和先生が急逝されました。享年49才とあまりに早すぎる訃報に皆様も驚かれたことと存じます。先生はこれまでフリーズフラクチャーレプリカと免疫細胞化学を結びつけたユニークな研究で画期的な免疫細胞化学の分野を開拓され、また日本電子顕微鏡学会（現日本顕微鏡学会）でも和文誌の編集などに多大な貢献をなされました。

藤本和先生は1976年（昭和51年）大阪府立大学農学部を卒業後、1978年（昭和53年）山口大学農学部の大学院修士課程を経て、1982年（昭和57年）京都大学医学部大学院博士課程を終了され、1999年（平成11年）福井県立大学看護福祉学部教授として転出されるまでの21年間、京都大学の解剖学第二講座（現在の生体構造医学講座、機能微細形態）の講師として研究、教育に従事されました。京都大学における先生の初期の研究は小川和朗教授のもとで馬屋原宏助教授と共に新しい酵素組織化学的検出法の開発に始まり、Na-K ATPase, adenylate cyclase, guanylate cyclase, Ca-ATPase, H-K ATPase など多くの酵素活性の光顕及び電顕レベルにおける検出方法の確立に従事されました。それらの一連の研究からギャップ結合の持つ新たな酵素細胞化学的所見を報告されました。さらにフリーズフラクチャーや当時、我が国ではまだ一般的ではなかった凍結超薄切片を用いた免疫金標識にも取り組まれました。1987年（昭和62年）からは、当時、フリーズフラクチャーの権威であった米国NIHのPinto da Silva教授のもとに留学されたことでフリーズフラクチャーの研究はさらに発展し、フラクチャーフリップ法、そして帰国後にはフラクチャーレプリカを用いた免疫金標識法など、これまで不可能であると考えられていたフリーズフラクチャーと細胞化学の新たな結合を成し遂げ、電子顕微鏡レベルの細胞化学、免疫細胞化学における新たな分野を開拓されました。こうした一連の研究に対して、1999年（平成11年）日本電子顕微鏡学会から第44回瀬藤賞が贈られました。

藤本和先生の研究姿勢は形態を観察していても、常に機能との関連が背景としてあり、電子顕微鏡で観察した微細形態

と機能との間の整合性を追求していた数少ない研究者の一人でありました。これからいくつもの新しい研究の展開が期待されていただけに先生の死はおそらく、彼を含め、すべての人にとって予想外のことであり、まことに残念といわざるをえません。

先生の死は私にとって長年、京都大学の同じ研究室で親しく付き合ってきた友人を失ったという意味で非常に淋しい出来事であると感じておりますが、より客観的に見れば微細形態や種々の電子顕微鏡による微細形態観察法を熟知している優秀な研究者が我が国からまた一人失われたことを意味します。この分野における研究者が減少してきている我が国の現状に思いを致すとき、私は先生の死がより多くの研究者に重く受けとめられ、電子顕微鏡を用いた、さらなる研究への御理解と御支援を望むものです。

先生の早すぎのご逝去を悼み、深い哀悼の意をもってご冥福をお祈りしたいと存じます。

（京都大学大学院医学研究科生体構造医学講座機能微細形態 野田 亨）

## ◇第8回アジア・太平洋電子顕微鏡学会議（8APEM）

### —第60回学術講演会について—

2004年6月7日（月）～11日（金）に石川県立音楽堂、金沢全日空ホテルで開催される8APEM・第60回学術講演会は2月22日に演題の申し込みが締め切られました。なお、インターネットによる事前の参加登録のみの受付は5月21日（金）までとなっていますので、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

シンポジウム（口演、ポスター討論）、基調講演、ワークショップなどの学術講演以外に、フィリップ・アントルモン指揮アンサンブル金沢オーケストラによるコンサート、市内視察、パーティーなど、海外参加者及び会員相互の交流を楽しんでいただけます。また常陸宮様の特別講演が予定されています。

本講演会の詳細についてはホームページ（<http://www.kanazawa-med.ac.jp/~8apem/>）をご覧ください。

#### ◇第49回日本顕微鏡学会シンポジウムについて

2004年度シンポジウムは下記の通り開催されます。プログラムは顕微鏡第39巻(2004年)2号綴込にて送付の予定です。

1. テーマ:「ナノ, バイオ材料への応用から考えた最先端マイクロコピー」(予定)
2. 日程:2004年11月8日(月), 9日(火)(予定)
3. 開催場所:名古屋大学東山キャンパス内シンポジオン及び野依国際交流センター

(新幹線名古屋駅から直接地下鉄で30分以内)

(愛知県名古屋市千種区不老町1, <http://www.nagoya-u.ac.jp>)

#### 4. 実行委員会

委員長: 田中信夫(名古屋大学)

問い合わせ先:

〒464-8603 名古屋市千種区不老町1

名古屋大学理工科学総合研究センター

(4月からエコトピア科学研究機構に名称変更)

TEL: 052-789-5168, 4457 FAX: 052-789-3827

E-mail: [kensymp@cirse.nagoya-u.ac.jp](mailto:kensymp@cirse.nagoya-u.ac.jp)

#### 5. シンポジウムの主旨と内容

収差補正やモノクロメーター, イメージングフィルターおよび3Dなどの近年の電子顕微鏡技術の革新や走査プローブ顕微鏡技術の進展は, 我々に久々のブレイクスルー感を与えています。そのような中で材料科学や生物科学への応用技術も合わせて開発されていくことも重要です。今回のシンポジウムでは, 前回までのシンポジウムの到達点を受け継ぎながら, 思い切って最新顕微鏡技術の「応用」に一つのフォーカスをあてることにしました。合わせて名古屋地区は「日本の産業の首都」と呼ばれるように, 先端的材料を扱う企業の研究所も多く, その成果を全国の皆様へ発信するとともに, 親密な研究交流をする場にもしたいと思います。

#### ◇第14回電子顕微鏡大学について

電子顕微鏡は先端材料の研究やバイオロジーの分野まで広い領域で基礎研究と応用研究のそれぞれの領域における, 高度で有益な物質情報解析の担い手として, 極めて有能な装置・技術に成長しております。しかし, その機能と性能を十分に活用し, 真に有用なデータを収集するには, どうしてもある程度の基礎知識と操作の技術が要求されることも事実です。こうした状況を踏まえ, 材料研究に従事する研究者や技術者で, これから電子顕微鏡を利用しようとする人あるいは, 始めて間もない初級・中級レベルの人を対象に, 電子顕微鏡法の基礎的技術セミナー「電子顕微鏡大学」を開講しています。電子顕微鏡による材料の評価法及び分析法を講義して好評のうちに今回で14回目を迎えます。アンケートによる受講者の意見の迅速な反映, 好評の「質問・解答集」の送付など, 受講者講師陣一体となった「平易で役立つセミナー」となるよう情熱を傾けています。今回より会場が東京工業大学百年記念館に移動したことを機に, さらに講義内容

の充実を図りたいと考えています。物質・材料研究の次代を担う方々の受講をお誘いします。

日時:2004年4月19日(月), 20日(火)

会場:東京工業大学百年記念館

(東京都目黒区大岡山2-12-1)

交通:大岡山駅\*から徒歩1分

(\*:東急大井町線・目黒線)

定員:150名(定員に至った時点で締め切ります)

受講料:(テキスト代含む)

顕微鏡学会会員・同賛助会員:30,000円, 協賛学

会会員:45,000円, 非会員:60,000円, 学生:

10,000円

申込先:「電顕大学」事務局

〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目

北海道大学エネルギー先端工学研究センター

極限材料工学分野内

TEL & FAX: 011-706-7580

E-mail: [dendai@ufml.caret.hokudai.ac.jp](mailto:dendai@ufml.caret.hokudai.ac.jp)

申込締切:2004年4月13日(火)

プログラム

〈第1日目〉4月19日(月)9:40~17:15

〈イントロダクション〉

1. 電子顕微鏡のハードウェア  
—基本構造のやさしい解説—

及川哲夫(日本電子)

〈電子顕微鏡特論(1)構造解析〉

2. 電子回折法—回折像の原理と構造情報—

田中通義(東北大・多元研)

3. 明視野像法, 暗視野像法

—材料組織と格子欠陥の詳細な観察法—

坂公恭(名大・工)

4. 原子構造の解析

- 1) 高分解能電顕法の基礎

—格子像原理のわかりやすい解説—

田中信夫(名大・工)

- 2) 高分解能電顕法の実際

—格子像観察で守るべき技術的ポイント—

市野瀬英喜(北大・エネ先端研)

〈第2日目〉4月20日(火)9:30~17:50

〈電子顕微鏡特論(2)局所分析〉

5. エネルギー分散型X線分光法(EDS)

—元素分析の原理と実際—

板東義雄(物材機構)

6. 電子エネルギー損失分光法(EELS)

—電子構造の情報を捉える—

倉田博基(京大化研)

7. 試料作製法—最適試料作成法と新手法—

上田修(富士通研究所)

〈電子顕微鏡特論(3)表面分析〉

8. 表面のマイクロ構造 / 走査電顕 (SEM・EPMA)  
 — SEM 像と元素分析 —  
 永田文男 (日立サイエンス)
9. 表面の原子・電子構造—走査型トンネル顕微鏡  
 (STM・AFM) —原理と技術のポイント—  
 富取正彦 (北陸先端科技大)

◇第20回分析電子顕微鏡討論会について

第20回分析電子顕微鏡討論会を下記の要領にて開催いたします。奮ってご参加下さい。

(代表責任者：京都大・化研 倉田博基)

URL: <http://eels.kuicr.kyoto-u.ac.jp/bunseki20/>

— 20周年特別企画—基礎から最先端技法まで

期 日：平成16年8月31日(火)、9月1日(水)

会 場：幕張メッセ (分析機器工業会主催の分析展と同時に開催)

参加費 (予稿集合)：会員及び協賛学会員 6,000円、学生 3,500円、非会員 7,000円

内 容：EDS と EELS に関する基礎 (チュートリアル) と分析技法の最前線 (EPMA, HAADF, ホログラフィー, デバイス分析) を紹介するとともに、先端材料への新展開 (ゴムメタル, 半導体ナノ構造, 鉄鋼材料, 歯科金属) や試料作製のノウハウさらには海外の研究事情の紹介が行われます。また20周年を記念した企画として、討論会のこれまでの歩みと今後、さらには電子顕微鏡研究の歩みについて特別講演が催されます。一般からの口頭発表も募集しています。

申込方法：氏名、勤務先、所属、住所、電話番号、Fax 番号、e-mail アドレスをご記入のうえ、下記へお申し込み下さい (e-mail か Fax による)。講演を希望される場合は、題目、発表者 (共同研究者も含む) を併せてご連絡下さい。

申込先 (兼連絡先)：〒611-0011 宇治市五ヶ庄  
 京都大学化学研究所 根本 隆  
 TEL: 0774-38-3054 FAX: 0774-38-3055  
 E-mail: [bunseki20@eels.kuicr.kyoto-u.ac.jp](mailto:bunseki20@eels.kuicr.kyoto-u.ac.jp)

一般講演申込締め切り：平成16年6月30日(水)

参加申込締め切り：平成16年8月20日(金)

プログラム：

8月31日(火)

<10:00-12:00>

チュートリアル

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. EDS の基礎    | 進藤大輔 (東北大)  |
| 2. EDS の最新動向  | 杉山昌章 (新日鐵)  |
| 3. EELS の基礎   | 及川哲夫 (日本電子) |
| 4. EELS の先端研究 | 木本浩司 (物材機構) |

<13:30-15:10>

分析技法の最前線

- 最新 FE-EPMA による高精度 X 線分析  
高橋秀之 (日本電子)
- HAADF による原子レベルでの組成解析  
阿部英司 (物材機構)
- 電子線ホログラフィーを用いた先端磁性材料の評価  
村上恭和 (東北大)
- Si 系デバイス絶縁膜の EELS 分析  
朝山匡一郎 (ルネサステクノロジ)

<15:10-15:25>

休憩

<15:25-17:05>

先端材料への新展開

- ゴムメタルの組織解析 倉本 繁 (豊田中研)
- 半導体ナノ構造のカソードルミネッセンス  
山本直紀 (東工大)
- 高機能鉄鋼材料のナノ領域解析  
山田克美 (JFE スチール)
- 歯科金属 (EDX/XRF)  
—金属アレルギーを中心として—  
林 善彦 (長崎大)

9月1日(水)

<10:00-11:00>

試料作製のノウハウ

- 金属・セラミックス・半導体の薄膜化  
市野瀬英喜 (北大)
- FIB を用いたソフトマテリアルの試料作製  
上野武夫 (日立サイエンスシステムズ)
- 生物クライオ試料 高屋憲一 (富山医薬大)

<11:00-12:00>

海外の研究事情

- 海外における分析電子顕微鏡法の動向と展開  
渡辺万三志 (Lehigh 大)
- 諸外国の最新電子顕微鏡プロジェクトについて  
田中信夫 (名大)

<13:00-14:00>

「20周年特別企画」

- 分析電子顕微鏡討論会の20年の歩みと今後の展開  
板東義雄 (物材機構)
- 電子顕微鏡のこし方をふりかえって  
— Hans Bethe に学んだことなど—  
志水隆一 (大阪工大)

<14:00-14:15>

質問回答コーナー

<14:15-14:30>

休憩

<14:30-17:10>

一般講演

#### ◇ SCAN TECH2004のご案内

走査電子顕微鏡分科会・SCAN TECH 実行委員会

SCAN TECH は、走査電子顕微鏡分科会が主催する催しで、あらゆる分野の研究者あるいは SEM 本体、周辺機器に関わる研究者が一堂に集まり、講師、参加者、実行委員を交えて納得のいく討論をする場です。

SEM は、比較的簡単な前処理および操作で試料表面や内部の微細構造観察が可能な装置ですが、その像信号には様々な情報が含まれ像コントラストの形成は複雑です。したがって SEM を有効活用するためには、信号に含まれる情報を正しく理解すること、不要な情報を低減するために前処理や観察条件を最適化すること、必要な情報のみを選別して検出する機能を装置に付加することなどが重要です。しかしながら、SEM 信号のもたらす複雑な試料情報の効果的活用に関する研究報告例や技術的な議論を行う場は多くありません。

今年はこのような点をふまえて下記の通り SCAN TECH2004 を開催することとなりました。会の終了後のミキサーでは、講師と直接、あるいは参加者同士のディスカッションが出来るような時間を作っております。

タイトル：未定

日時：2000年9月3日（金）

会場：日本女子大学 100 年館

（東京都文京区目白台 2-8-1）

なお、詳細は走査電子顕微鏡分科会 HP (<http://homepage1.nifty.com/scantech/>) に逐次掲示いたします。

#### ◇第49回学会賞（瀬藤賞）について

2004 年度学会賞（瀬藤賞）は 19 件の推薦があり、選考委員会からの答申のもと、理事会において、以下の会員に授与が決定しました（第 3 回理事会議事要旨参照）。本年度学術講演会において受賞講演が行われます。万障お繰り合わせのうえ、ご来聴くださいますようお願い申し上げます。

##### 【A：顕微鏡法基礎部門】

津田健治「収束電子回折法による精密結晶構造・電子密度解析法の開発と応用」

##### 【B：応用研究（生物）部門】

井出千東「神経再生の超微形態学的研究」

##### 【C：応用研究（非生物）部門】

平山 司「電子波干渉による電場・磁場観察手法の開発と材料・デバイスの解析への応用」

#### ◇第19回論文賞について

2004 年度論文賞は、選考委員会からの答申のもと、理事会において、以下の論文に授与が決定しました（第 3 回理事会議事要旨参照）。

##### 【a：顕微鏡法基礎部門】

Advances in energy-filtering transmission electron microscopy: JEM 50-6 (2001) : 509-515 : Wilfried Sigle, Achim Zern, Kersten Hahn, Ulrike Eigenthaler and Manfred Rühle

##### 【b：応用研究（生物）部門】

Detection of aluminium by energy dispersive X-ray micro-analysis at high accelerating voltages with semi-thin sections of biological sample: JEM 51-4 (2002) : 265-274 : Kiyokazu Kametani

##### 【c：応用研究（非生物）部門】

Examination of electrostatic potential distribution across an implanted p-n junction by electron holography: JEM 50-6(2001) : 479-484 : Zhouguang Wang, Katsuhiko Sasaki, Naoko Kato, Kenya Urata, Tsukasa Hirayama and Hiroyasu Saka

##### 【d：和文誌賞】

単粒子解析法による結晶を用いない蛋白質構造解析：電圧依存性 Na<sup>+</sup> チャンネルの構造を例として：電子顕微鏡 37-1 (2002), 40-44 : 佐藤主税, 上野 豊, 小椋俊彦, 藤吉好則

#### ◇第9回技術功労賞について

2004 年度技術功労賞は選考委員会からの答申のもと、理事会において、以下の会員に授与が決定しました（第 3 回理事会議事要旨参照）。

物質系応用研究部門：鈴木猛夫

走査電子顕微鏡用寸法標準試料の開発とその応用

#### ◇第5回奨励賞について

2004 年度奨励賞は 3 件の推薦があり、選考委員会からの答申のもと、理事会において、以下の会員に授与が決定しました（第 3 回理事会議事要旨参照）。

物質系応用部門：阿部英司

原子分解能 ADF-STEM による準結晶構造に関する研究

#### ◇第50回学会賞（瀬藤賞）受賞候補者の募集

第 50 回学会賞（瀬藤賞）受賞候補者（推薦・自薦）を公募します。推薦用紙の請求、手続きの詳細は事務局へ書面にてご連絡下さい。推薦締切は本年 7 月 12 日です。

#### ◇第20回論文賞候補論文の募集

第 20 回論文賞授賞候補論文（推薦・自薦）を公募します。推薦方法は過去 2 年間の学会誌（「電子顕微鏡」37・38 巻、「JEM」51・52 巻）に掲載された論文が対象となります。推薦用紙の請求、手続きの詳細は事務局へ書面にてご連絡下さい。推薦の締切は本年 7 月 12 日です。

#### ◇第10回技術功労賞候補者の募集

故神谷芳弘先生からの寄付をもとに平成 8 年度から電子顕微鏡応用技術の進歩発展に関し、優れた功労のある方に技術功労賞を授与しています。本賞受賞候補者（推薦・自薦）を公募します。推薦用紙の請求、手続きの詳細は事務局へ書面にてご連絡下さい。推薦の締切は本年 7 月 12 日です。

#### ◇第6回奨励賞候補者の募集

故深井孝之助先生からの寄付をもとに電子顕微鏡学および顕微鏡法研究にかかわる若手研究者奨励のため、平成13年度から奨励賞を設置しています。本賞受賞候補者（推薦・自薦）を公募します（推薦締切：本年7月12日）。受賞対象者は本年7月末日において満40歳未満となっています。推薦用紙の請求、手続きの詳細は事務局へ書面にてご連絡下さい。

#### ◇永年会員について

正会員歴30年以上でかつ満65歳以上の会員は、5年分の会費を一括前納することにより永年会員となることができません（永年会員：終生正会員の資格を保有）。永年会員の申請については学会事務局へお尋ねください。

#### ◇2003年度電子顕微鏡技術認定者

本年度の技術認定試験は2003年10月11日（土）、東京・京都・福岡の3会場で実施されました。結果は次の通りです。

- 1) 一般生物  
受験者47名 合格者39名（合格率82%）
- 2) 特殊技術Ⅰ  
受験者1名 合格者1名（合格率100%）
- 3) 特殊技術Ⅱ  
受験者1名 合格者0名（合格率0%）
- 4) 特殊技術Ⅲ  
受験者0名 合格者0名
- 5) 特殊技術Ⅳ  
受験者4名 合格者4名（合格率100%）

一般技術認定者および特殊技術合格者は次の通りです。

{一般技術認定者（合格者）}

板倉栄作（990）、奥島浩久（991）、河野真沙子（992）、  
金須清美（993）、小島依子（994）、小林尚子（995）、  
三五朋子（996）、田中真由美（997）、常見泰暢（998）、  
直井美穂（999）、孟 憲英（1000）、森川晃成（1001）、  
渡辺孝平（1002）、池上公美子（1003）、石川明奈（1004）、  
植田清文（1005）、亀田幸花（1006）、久保田彩（1007）、  
高 貞愛（1008）、神山陽子（1009）、佐野孝一（1010）、  
坂野真弓（1011）、瀬木沙織里（1012）、深川直美（1013）、  
藤田典子（1014）、藤山真由美（1015）、溝上恭代（1016）、  
山本 司（1017）、渡辺裕子（1018）、生田いづみ（1019）、  
金丸孝昭（1020）、茅嶋康太郎（1021）、佐藤房枝（1022）、  
田中沙織（1023）、中村仁美（1024）、永田貴久（1025）、  
奈良聡一郎（1026）、西野朋子（1027）、  
羽方あゆみ（1028）、織田志郎（1029）

注）（ ）内は認定登録番号

{特殊技術Ⅰ合格者}

大野真由子

{特殊技術Ⅳ合格者}

植松勝之（87）、鈴木正則（88）、高木孝士（89）、  
儘田明央（90）

注）（ ）内は認定登録番号

#### ◇第13回電子顕微鏡大学決算報告

4月22・23日に東京大学山上会館で行われた電子顕微鏡大学の収支決算は以下のとおりです。

〈収入の部〉		(単位：円)
会 員	@30,000×11	330,000
賛助会員	@30,000×8	240,000
協賛会員	@45,000×17	765,000
非 会 員	@60,000×9	540,000
学 生	@10,000×18	180,000
テキスト代	@5,000×1	5,000
学会補助金	@100,000	100,000
合 計		2,160,000
〈支出の部〉		(単位：円)
文 具 代		21,230
通 信 費		120,990
アルバイト代		225,500
資料調査費		500,000
講師交通費		156,000
会 場 代		92,700
事 務 費		50,000
印 刷 費		258,352
合 計		1,424,772

収支差額（学会本部への繰入金）：735,228円

#### ◇第59回学術講演会報告

6月7～9日に札幌コンベンションセンターで行われた第59回学術講演会の収支決算等は以下のとおりです。

〈収入の部〉		(単位：円)
科 目		決 算
1. 参加費		[4,046,000]
会員（ <input checked="" type="checkbox"/> 切前）	327名×@5,000	1,635,000
会員（ <input checked="" type="checkbox"/> 切後）	22名×@6,000	132,000
臨時会員（ <input checked="" type="checkbox"/> 切前）	67名×@8,000	536,000
臨時会員（ <input checked="" type="checkbox"/> 切後）	16名×@9,000	144,000
会員（当日申込）	149名×@6,000	894,000
臨時会員（当日申込）	76名×@9,000	684,000
1日会員（当日申込）	7名×@3,000	21,000
2. 要旨集		[1,832,000]
事前申込	374部×@2,500	935,000
当日購入	279部×@3,000	837,000
別途購入	30部×@2,000	60,000
3. 懇親会費		[1,845,000]
事前申込（～4/30）	144名×@5,500	792,000
事前申込（5/1～）	21名×@6,500	136,500
当日申込	141名×@6,500	916,500

4. 広告料		[829,500]
予稿集広告	15 件	829,500
5. 協賛		[94,500]
企業協賛金	3 件 × @31,500	94,500
6. 機器展示		[9,500,925]
大小間	2 × @1,732,500	3,465,000
中小間	1 × @945,000	945,000
小小間 A	19 × @157,500	2,991,660
小小間 B	20 × @105,000	2,099,265
7. 本部補助		[2,500,000]
8. 冠 WS	12	[630,000]
9. 弁当売上		[242,400]
	75 × @800	60,000
	134 × @800	107,200
	94 × @800	75,200
10. 補助金 札幌市		[1,000,000]
11. 雑収入		[4,968]
銀行利息		18
NW 研究会より送料		4,950
合計		22,525,293
〈支出の部〉 (単位：円)		
科目		決算
1. 会場使用料 札幌コンベンションセンター		[4,991,008]
2. 委託運営費		[10,751,690]
1) 募集要項作成		582,750
2) ホームページ管理		240,000
3) 入金管理		240,000
4) プログラム作成費		665,600
5) 要旨作成費		1,550,000
6) 封筒印刷		30,000
7) プログラム発送		50,000
8) 要旨発送作業		160,000
9) 名札作成		63,000
10) 大会当日：会場機材設営		1,295,450
11) 展示機材設営		1,689,600
12) 会場運営管理		1,266,700
13) 看板・サイン		696,000
14) 雑費		90,605
15) 業務委託費：事務費		1,000,000
16) 運営スタッフ		200,000
17) 管理手数料		420,000
18) 消費税		511,985
3. 当日費用		[1,733,747]
1) アルバイト料		1,208,520
2) 専門スタッフ		102,520
3) 弁当など		414,607
4) タクシー代		5,400
5) 駐車場		2,700
4. 企画費		[290,000]
1) シャトルバス代		210,000
2) 公開講演デザイン料		80,000
5. 懇親会		[1,918,875]

1) 札幌ビール園	1,834,875
2) バス代	84,000
6. WC パーティー	[238,707]
1) 樽ビールなど	138,707
2) オードブルなど	100,000
7. 事務雑費	[332,868]
1) 写真フィルム費・現像費	12,686
2) コンクール楯など	5,182
3) レーザーポインター	15,750
4) レンタル (PC, コピーなど)	299,250
8. 実行委員会	[424,185]
1) 学会会員データー	60,900
2) 人件費	54,000
3) カートリッジ, OHP 用紙等	99,918
4) フライヤー印刷費	21,000
5) 表紙版下	10,500
6) 銀行振込手数料	6,087
7) 郵送手数料	21,780
8) 大会ポスター	150,000
9. 会議費	[41,676]
1) 会議会場費	2,420
2) 弁当・飲物・紙コップ	8,126
3) 交通費	10,760
4) 書類等郵送費	20,370
10. 予備費 (本部へ返却)	[1,802,537]
合計	22,525,293

1) 参加者数

(i) 会員, 非会員別内訳

会員	498
非会員	166
招待者	104
学生	45
商業展示関係者	55
計	868

2) 演題数

(i) 演題内訳

	口頭発表	ポスター	合計
材料系	302	34	336
生物系	156	45	201
合計	458	79	537

(ii) カテゴリー別内訳

	シンポジウム	一般セッション	ポスター	合計
共通	33	—	—	33
材料系	150	123	34	307
生物系	95	35	45	175
合計	278	158	79	515

(写真コンクール 13, 冠ワークショップ 12, 学会賞受賞

講演 4, 特別講演 1, 国際ミニシンポジウム 11, 一般公開講演会 2, 一般公開展示会 2 を除く)

◇第14回電子顕微鏡サマースクール決算報告

7月26～27日に大阪医科大学で行われた第14回サマースクール(テーマ:アポトーシスの顕微鏡学)には24名の受講者がありました。収支決算は以下のとおりです。

〈収入の部〉	(単位:円)
	480,000
学生 12名×@15,000	(180,000)
一般 12名×@25,000	(300,000)
	230,000
(株)アズバイオ	(50,000)
(株)アテスト	(10,000)
八洲薬品(株)	(25,000)
三和理研(株)	(50,000)
和光純薬(株)	(50,000)
(株)アーガスサイエンス	(10,000)
(株)ニューメディアランドマツバラ	(10,000)
日本バイオラッドラボラトリーズ	(25,000)
学会補助金(日本顕微鏡学会)	100,000
大阪医科大学仁泉会	100,000
合計	910,000
〈支出の部〉	(単位:円)
	87,885
テキスト印刷代	(87,465)
振込手数料	(420)
	37,455
封筒代	(6,825)
ポスター郵送料	(22,080)
テキスト送付料	(8,550)
	210,840
ポスター	(210,000)
振込手数料	(840)
	359,739
実験消耗品代	(359,739)
	13,054
ポスター郵送ラベル・テキスト郵送用ビニール袋	(2,664)
修了証用賞状用紙	(1,620)
名札入れ・名札用紙	(4,830)
コピー代	(3,940)
	111,027
懇親会費	(75,000)
懇親会飲物代他	(8,128)
昼食代	(27,899)
	90,000
アルバイト料	(90,000)
合計	910,000

◇学会の刊行物について

日本顕微鏡学会刊行物は日本医科大学で保管され、閲覧できるようにになっています。閲覧を希望される場合は訪問日時などを予め以下へご連絡ください。

〒113-8602 文京区千駄木1-1-5

日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設(広畑泰久)

FAX: 03-5685-5517

E-mail: hirohata@nms.ac.jp

また、JEM誌、電子顕微鏡誌、学術講演会・シンポジウム要旨集は以下の通り頒布しています。

JEM誌(46巻以降): オックスフォード・ジャーナル

〒113-0023 文京区向丘1-1-17-5F

TEL: 03-3813-1461 FAX: 03-3818-1522

JEM誌(45巻以前)、電子顕微鏡誌、学術講演会・シンポジウム要旨集:(財)日本学会事務センター

〒113-8531 文京区本郷3-22-5

住友不動産本郷ビル7階

TEL: 03-5814-5811 FAX: 03-5814-5822

◇第48回シンポジウム論文集頒布について

2003年12月6日から7日に東京医科歯科大学湯島キャンパスで開催した第48回シンポジウム(テーマ:材料科学と生命科学のクロストークー顕微解析の最前線)では要旨集を発行しました。ご希望の方は下記へご連絡下さい(頒布価格:2,500円)。

問い合わせ先: 〒113-8531 東京都文京区本郷3-22-5

住友不動産本郷ビル7階 (財)日本学会事務センター

TEL: 03-5814-5811 FAX: 03-5814-5822

E-mail: sub@bcasj.or.jp

◇関係学協会のお知らせ

- 第4回(平成16年度)材料科学技術振興財団山崎貞一賞候補者募集
  - 授賞対象分野
    - 材料
    - 半導体及び半導体装置
    - 計測評価
    - バイオサイエンス・バイオテクノロジー
  - 授賞対象者: 詳しくは下記の請求先へお問い合わせ下さるか、URLをご覧ください。
    - 授賞対象は、論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用的効果につながる優れた創造的業績をあげ、かつ/もしくは、今後そのような業績をあげる可能性が高い将来性のある人(複数人も可)とします。
    - 受賞候補者の国籍は問わず、日本国内において業績をあげた人を授賞対象とします。
    - 過去に応募されたことのある人でも再応募可能です。
  - 顕彰: 各分野それぞれに賞状及び副賞(メダル・賞金300万円)を贈呈します。
  - 締切期日: 平成16年4月末日必着

5. 推薦書請求先、提出先：

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見 1-18-6  
財団法人 材料科学技術振興財団 山崎貞一賞事務局  
TEL: 03-3415-2200 E-mail: prize@mst.or.jp  
FAX: 03-3415-5987 URL: http://www.mst.or.jp/

2) 第180・181回西山記念技術講座「鉄鋼材料の組織と材質予測技術」

第180回：2004年6月11日（金）

場 所：東京工業大学（東京都目黒区）

第181回：2004年7月2日（金）

場 所：西山記念会館（神戸市中央区）

問い合わせ先：日本鉄鋼協会

TEL: 03-5209-7201 E-mail: educact@isij.or.jp

◇平成15年度第3回理事会議事要旨

日 時：平成15年12月6日（土）11:00～14:30

会 場：東京医科歯科大学歯学部大会議室

出席者：（理事）外村 彰，澤田 元，大野伸一，平山  
司，石村和敬，松井良夫，大貫惣明\*，脇田  
稔，高野吉郎，倉田博基，高井義造，森田清三，  
友清芳二\*

（監事）矢崎和盛（\*：支部長兼任）

委任状出席：（理事）岩槻正志，寺内正己

（監事）井出千束

オブザーバー：平井圭一（8APEM 組織委員長），飯島澄  
男（IMC-16 組織委員長），古屋一夫（IMC-16  
組織委員），森博太郎（和文誌副編集委員長，  
IMC-16 組織委員，学会賞（瀬藤賞）選考委員），  
市野瀬英喜（欧文誌編集委員長，論文賞選考委員  
長），大槻勝紀（サマースクール実行委員長），山  
口正視（技術認定委員長），後藤俊幸（関西支部  
長）

欠席者：（理事）永山國昭

【報告】

1. 庶務報告：大野常務理事より，第1回理事会以降の会務について報告が行われた。なお，①書面審議において各賞の選考委員が以下のとおり決定したこと，②日本臨床電子顕微鏡学会から本会理事会へのオブザーバ出席に関して「大槻勝紀氏」を推薦する旨の連絡があり，了承したこと等が併せて報告された。

「学会賞（瀬藤賞）選考委員」◎：主査

委員長（顕微鏡法主査兼）下山 宏

応用研究生物：◎柴田洋三郎，村田長芳，高田邦昭

応用研究非生物：◎森博太郎，古屋一夫，山本直紀

「論文賞選考委員」◎：主査

委員長（顕微鏡法主査兼）市野瀬英喜

応用研究生物：◎高屋憲一，鈴木季直，大門建夫

応用研究非生物：◎板東義雄，黒田光太郎，松村 晶

「技術功労賞選考委員」

委員長（応用研究非生物主査兼）佐藤 馨

応用研究非生物：小池紘民，関口隆史

「奨励賞選考委員」

委員長（応用研究非生物主査兼）木下智見

応用研究非生物：弘津禎彦，坂 公恭

2. 日本臨床電子顕微鏡学会報告：大野常務理事から第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会が2003年10月29日～10月31日に文京シビックホール（東京）で盛会裏に行われた旨報告があった。

3. 会計報告：石村常務理事より，会計状況について配布資料に基づき報告が行われた。会員数減少により会費収入の落ち込みが懸念される旨説明があった。また，2004年8APEM，2006年IMC-16への補助金等について説明があった。

4. 欧文誌編集委員会報告：編集進捗状況報告

5. 和文誌編集委員会報告：森副編集委員長から編集進捗状況について報告が行われた。学会誌名が「電子顕微鏡」から「顕微鏡」に変更することにもない，新たな表紙デザインを検討中である旨説明があった。

6. 技術認定委員会報告：山口認定委員長から2003年度認定試験結果について報告があった。また，電顕入門ガイドブック発行にもない，①平成16年度科研費を申請した②学会賞・認定委員長名にて広告掲載依頼を行い，これに見合った額の補助金を学会から支出することとした。

7. 学術運営委員会報告（平成16年度分科会・研究部会の件含む）：澤田委員長より理事会に先立ち行われた学術運営委員会・分科会・研究部会責任者合同会議について報告が行われた。先の理事会で承認された「①平成16年度分科会・研究部会設置について，②分科会・研究部会申請要項・用紙」が同委員会です承を受けた旨説明があった。概要は以下のとおり。

1) 平成16年度は数件（上限は6）の研究部会を設置する。

2) 平成16年度設置する分科会は原則的に平成15年度からの継続6件に理事会から提案のあった1件（⑦）の，以下のものとする。ただし，各分科会とも申請手続きを必要とする。

①ニューマイクロスコープ分科会，②分析電子顕微鏡分科会，③高分解能電子顕微鏡分科会，④走査電子顕微鏡分科会，⑤生体構造解析分科会，⑥デバイス解析分科会，⑦走査型プローブ顕微鏡分科会

3) 各分科会・研究部会は継続申請の際には中間報告の提出を要する。

8. 支部報告：各支部事業中間報告

9. 8APEM・第60回学術講演会準備状況報告

【議題】

1. 第14回電子顕微鏡サマースクール決算の件：承認

2. 第15回サマースクールの件：標記実行委員長に井上貴央会員を推薦する旨の提案がされ，委嘱することとした。



3. 第49回シンポジウムの件：標記実行委員長に田中信夫会員を推薦する旨提案され、委嘱することとした。また愛知県近郊の企業関連の会員を実行委員として加える旨、説明があった。

4. 第59回学術講演会決算の件：承認

5. 第13回電頭大学決算の件（第14回電頭大学開催の件を含む）：第13回電頭大学決算について承認された。また、次回電頭大学が4月19日（月）、20日（火）に東京工業大学において開催されること、また電頭大学事務局が北海道大学に移ること等が併せて説明された。

6. 平成16年度学会賞（瀬藤賞）受賞者の件：選考委員会からの報告に基づき協議した結果、受賞者が決定した（4頁参照）。また、選考委員会から出された付記事項について審議し、了承した。

付記事項「次年度候補者推薦のための委員会（追加推薦委員会）を開催できるよう予算措置を講じる」

7. 平成16年度論文賞の件：選考委員会からの報告に基づき協議した結果、授賞論文を決定した（4頁参照）。

8. 平成16年度技術功労賞受賞者の件：委員会での選考経過が配布資料に基づき説明され、審議の後、受賞者を決定した（4頁参照）。

9. 平成16年度奨励賞の件：選考委員会での経過報告が資料に基づき説明され、審議の後、受賞者を決定した（4頁参照）。

10. 2006 IMC の件（準備状況報告含）：飯島組織委員長、古屋・森組織委員から11月28日付で解剖学研連・金属工学研連の推薦を受け、日本学術会議へ共同主催の申請を行った旨報告があった。また、共同主催とともに皇室のご臨席の要望が出され、これをすすめていくこととした。

11. 電子顕微鏡活性化検討会の件：日本の顕微鏡技術の発達と顕微鏡研究の発展のために必要な長期に渡る基礎研究をいかにすすべきかを学会として検討する場を持ちたい旨の提案が会長からあり、承認された。なお、第1回の会合を以下のとおり開催することが併せて説明された。

日 時：平成15年12月6日（土）16：00～18：00

会 場：東京医科歯科大学湯島キャンパス歯学部 大会議室

参加者（敬称略）：外村 彰、市野瀬英喜、森博太郎、砂子沢成人、本田敏和、森 民生、平山 司

12. 会員増員に関する件：澤田副会長、平山・松井常務理事から学会の現状について説明がされ、前回理事会で決まった会員増員担当理事・監事に加え、岩槻理事・柿林評議員に加わってもらい、会員増強活動を積極的に推し進めることとした。また、理事は2名、評議員は1名の正会員の入会勧誘をはかってもらうことも併せて了承された。なお、会員増強についての提案骨子は以下のとおり。

#### ①学会運営予算背景

- ・学会予算の状況：当期収支は420万円の赤字
- ・会員数、会費の状況：正会員、賛助会員とも1991年を

ピークに急落。会費収入も同様

正会員（9,500円/人） 賛助会員（60,000円/口）

1991年： 2,869名、2,730万円 106社、210口、1,260万円  
2003年： 2,022名、1,920万円 68社、129口、774万円

・このままでは、来年度は収支決算で赤字になること必至。

#### ②運営予算の増収案

- ・正会員の増加による増収
- ・賛助会費の増加等による増収
- ・科研費増額による増収
- ・その他

#### ③増収案による試算

・上記により、平成15年度赤字予算420万円を解消し、かつ多少の余裕確保を想定。

#### ④会員数を増加させるための施策を検討

#### ⑤会員増加のための具体的な行動

- ・会員募集趣意書の送付（特に賛助会員へ）
- ・学会理事、評議員、委員による周辺研究者、ユーザー、関連企業への直接的勧誘。趣意書手渡し。

13. 第61回学術講演会の件：標記実行委員長に松井良夫常務理事を推薦する旨が提案され、委嘱することとした。また、学術講演会運営方法について今後検討していくこととした。

14. JEM 契約に関する件：市野瀬編集委員長から契約変更案について説明があった。討議の結果、「共同経営（学会—OUP 共同所有）全員オンライン購読」案を中心に経費・電子化（冊子版の希望性）について検討を進めていくこととした。

共同経営（学会—OUP 共同所有）全員オンライン購読案

- ・学会員全員のオンラインアクセス権を学会が負担
- ・学会が編集権を保有する
- ・重要事項については学会とOUPの合意が必要
- ・学会の経費負担：PDFのみ： ¥2,000,000  
HTMLつき： ¥2,500,000
- ・印刷版を希望した会員は1,700円を負担

15. 入退会の件：2003年6月～10月の会員異動について報告が行われ、承認された。

	正会員	学生	賛助
入会	23	8	0
退会	16	0	2
除名	36	0	0

16. 協賛等依頼の件：12件の協賛・掲載等を了承した。

17. 広報委員会設置の件：外村会長から学会の広報活動の充実をはかるため、広報委員会を設置したい旨提案がなされ、承認された。委員として平山常務理事、および丹司評議員へ依頼することとした。

18. 平成16年度学会賞等授与式、並びに総会運営の件：平山常務理事からSAPEM幹事会において、日本顕微鏡学会第60回学術講演会として授与式・総会をどのように進行さ

せるかが議論になった旨，報告があった。討議の結果，

- (1) 日本顕微鏡学会総会は，6月9日（水）12：00～13：00（13：00以降にずれ込んでもかまわない）に行う。
- (2) 各賞授与式，ならびに学会賞（瀬藤賞）受賞講演は理事会からの要望はだすものの，最終的な判断は大会実行委員会側へ一任することとした。なお，理事会としての意見は平山常務理事が後日まとめ，実行委員会側へ連絡することとした。